

平成28年7月22日
子ども・若者部保育認定・調整課

第1回保育の利用調整基準見直し部会の検討状況について（報告）

1 検討状況

(1) 第1回見直し部会（平成28年7月1日 9:15～11:45）

出席者：森田部会長、猪熊委員、相馬委員、石井委員、上田委員、得原委員
事務局：中村部長、香山課長、上村課長、菅井課長

(2) 要旨

0 - 1歳を受け入れるための提言

当面0 - 1歳で待機児が出てしまう中で、優先すべき者が入園できる基準づくり

(3) 検討内容

当部会設置の経緯について

検討課題に対する区の考え方の説明と委員からの感想

) 兄弟ポイントの考え方の整理

・多子世帯を優先するよりは、第1子をいかに保育につなげていくか。

) ひとり親等の養育困難な世帯への対応

・優先枠等の検討

) 見直しの視点

・供給量が不足している緊急的な視点での見直しか、恒久的な視点での見直しか。

・項目によっては、暫定的な見直しも考えられる。

) 優先枠について

・待機児が多い緊急時の基準を設け定期利用保育枠を活用する。

・待機児童園を開設した例（静岡市）

0 - 1歳を受け入れるための提言

) 整備確保量の内容の表示方法について

) 一時保育や緊急保育の定期利用枠について

・定期利用保育の活用

・一時保育の0歳児対応

優先すべき者が入園できる基準づくり

) いつの時点で基準の見直しを考えるのか

事務局補足：待機児童が解消されたら利用調整の必要がなくなる。待機児童が多

数存在している現状を見直しの視点とする。

) 誰を優先する指数とするのか

- ・現在は、長時間就労している方を優先するような指数となっている。介護等と就労を半々でせざるを得ない方が漏れてしまう。
- ・保育所は福祉施設であり、チャイルドケアセンターのような福祉のための施設として親支援、子支援を行う役割を持つ。

) 地域型保育事業と認可外保育施設の卒園時指数の差

事務局補足：地域型保育事業は、連携施設を確保することになっており、確保できていない施設についての特例という位置づけである。

) 絶対値にとらわれない指数

) 早生まれの子どもへの対応について（課題の追加）

) 兄弟加算について

- ・他自治体では、兄弟加算をなくす方向の流れが多くなってきている。

) その他

- ・保育は多様な形を考えてもいい施設で、保育園はどのような形が世田谷区として良いのか考えてみる必要がある。
- ・今改めて注目されるのが、地域で育てるということを作り出していくことで、また、そういうことを重視している地域も出始めている。一部の地域で空き家をつかった保育が始まってきている。
- ・保育が必要な事由ごとに、枠を設けることなども考えられる。
- ・フルタイムとして見られる育児時間勤務については、フリーの人にとって疑問に思うところがあるが、一方で自宅でフリーの人は通勤時間がかからない部分があって、フルタイムの人からは見るとその部分の負担感を考慮してもらいたい思いがある。

2 次回の検討

見直しを行った場合の影響等も考慮して、さらに議論を深めていく。

3 スケジュール

平成28年7月1日

保育の利用調整基準見直し部会

平成28年8月17日

保育の利用調整基準見直し部会

平成28年11月～29年1月上旬

保育の利用調整基準見直し部会